

## 【薬用作物産地支援 栽培技術研修】

研修会	開催日	集合場所	研修会場	現地研修場所
北海道	11月12日(火)～13日(水)	千歳駅前 ( ( J R 北海道 千歳線 ) )	千歳アルカディア・プラザ (北海道千歳市)	株式会社 夕張ツムラ
東北	9月19日(木)～20日(金)	東能代駅前 ( J R 東日本 )	峰浜地区文化交流センター峰栄館 (秋田県八峰町)	八峰町
関東・北陸	9月5日(木)～6日(金)	掛川駅前 (JR東海)	静岡県総合社会福祉会館 (静岡県静岡市)	株式会社 葉善
東海・近畿	10月8日(火)～9日(水)	鈴鹿駅前 (伊勢鉄道)	三重県教育文化会館 (三重県津市)	障がい者アグリ就労支援会
中国・四国	12月12日(木)～13日(金)	佐川駅前 (JR四国土讃線)	高知県立県民文化ホール (高知県高知市)	ヒューマンライフ土佐
九州	10月24日(木)～25日(金)	杵築駅前 (JR九州日豊本線)	大分県中小企業会館 (大分県大分市)	杵築市

※ 集合場所～現地研修～研修会場はバスで移動します

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 北海道会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： 千歳アルカディア・プラザ(千歳市柏台南1丁目3-1)研修室300

実施時期： 11月12日(火)～13日(水)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
11月12日 (火)	12:30- 13:30 (60分)	12:20現地集合 場所:千歳駅(JR北海道 千歳線) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30- 15:10 (100分)	[現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	「株式会社夕張ツムラ」の工場視察等の現地研修を通じて、薬用作物の特徴、収穫後の調製技術等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:10- 16:10 (60分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:30- 17:30 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に向けた実需者側の取り組みについて解説する。	白鳥 誠	日本漢方生薬製剤協会 生薬委員会委員長
11月13日 (水)	9:00-10:30 (90分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について(仮題)	地域の生産者からの要望の高い栽培技術について解説する(カンゾウ、シャクヤク、ハトムギ等)	菱田 敦之	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター 北海道研究リーダー
	10:40- 12:10 (90分)	[講義] 農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」の取り組み(仮題)	高品質な産品を低コストで安定的に栽培・収穫し、複合経営モデルを実証することを目的としたプロジェクト研究のうち、北海道におけるトウキ、カンゾウについてのこれまでの成果について解説する。	村上 則幸 澁谷 幸憲 菊地 原	農研機構北海道農業研究センター 大規模畑作研究領域 水田作研究領域  株式会社夕張ツムラ 取締役
	12:10- 13:10	昼休み			
	13:10- 14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 東北会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会  
 受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者  
 研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上  
 受講定員： 20名  
 研修実施場所： 峰浜地区文化交流センター峰栄館（秋田県八峰町峰浜田中野田沢20-1）大ホール  
 実施時期： 9月19日(木)～20日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月19日 (木)	13:10-13:40 (30分)	13:00現地集合 場所：東能代(JR東日本) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:40-15:20 (100分)	[現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	八峰町(東京生薬協会との薬用作物栽培に関する連携協定締結)の圃場における現地研修で、収穫間近の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:20-15:40 (20分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:00-17:00 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会 生薬国内生産検討班長
	17:20-17:50 (30分)	移動(バス利用希望者) 研修会場→東能代駅			
9月20日 (金)	8:30-9:00 (30分)	移動(バス利用希望者) 東能代駅→研修会場			
	9:20-10:50 (90分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について(仮題)	東京生薬協会が支援している薬用植物国内栽培事業の東北地域における取り組み事例をもとに、栽培作業の基本から、地域特有の条件に合わせた品目の絞り込み、栽培技術等を解説する。	和田 浩志	東京理科大学薬学部薬学科准教授 東京生薬協会栽培指導員
	11:00-12:00 (60分)	[講義] 八峰町における薬用作物生産の取り組みについて(仮題)	八峰町における薬用作物生産に関する地域・生産者の取り組みについて、産地作りのきっかけから現状と課題、今後の展望を紹介する。	門脇 朝哉	八峰町農林振興課 農政係長
	12:00-13:00	昼休み			
	13:00-14:30 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:30-14:50	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	
	15:30-16:00 (30分)	移動(バス利用希望者) 研修会場→東能代駅			

※八峰町内の宿泊については下記にお問い合わせください  
 「八森いさりび温泉ハタハタ館 0185-77-2770」と併設する「あきた白神体験センター0185-77-4455」(会場から車で20分ほど)  
 「白神温泉ホテル0185-77-2233」(会場から車で10分ほど)  
 宿泊者のための送迎バスを出してもらえますようですが、ご確認ください。

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 関東・北陸会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： 静岡県総合社会福祉会館（静岡市葵区駿府町1-70）401会議室

実施時期： 9月5日(木)～6日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月5日 (木)	13:00- 13:30 (30分)	12:50現地集合 場所:掛川駅(JR東海) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30- 15:00 (90分)	[講義・現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	静岡県牧之原市 株式会社薬善の管理圃場(ミシマサイコ)における現地研修を通じて、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、種子・種苗の供給、品質評価等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:00- 16:10 (70分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:30- 17:30 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	高林 耕平	日本漢方生薬製剤協会 生薬国内生産検討班
9月6日 (金)	9:00-10:30 (90分)	[講義] 薬用作物の国内栽培技術について(仮題)	国内栽培の期待が高い薬用作物の栽培技術について解説する。(ミシマサイコ、シャクヤク、ジュウヤク、トウキ等)	酒井 英二	岐阜薬科大学 薬草園 研究室 教授
	10:40- 12:10 (90分)	[講義] 農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」の取り組み(仮題)	薬用作物の高品質な産品を低コストで安定的に栽培・収穫し、複合経営モデルを実証することを目的としたプロジェクト研究のこれまでの成果(特に静岡県の担当するミシマサイコの研究成果)について解説する。	久松 奨 種石 始弘	静岡県農林技術研究所 伊豆農業研究センター わさび生産技術科 上 席研究員 栽培育種科 科長
	12:10- 13:10	昼休み			
	13:10- 14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 東海・近畿会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： 三重県教育文化会館(三重県津市桜橋2-142)第2会議室

実施時期： 10月8日(火)～9日(水)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月8日 (火)	13:10-13:30 (20分)	13:00現地集合 場所:鈴鹿駅前(伊勢鉄道) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30-15:00 (90分)	[現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	三重県鈴鹿市 障がい者アグリ就労支援会の管理圃場(シャクヤク)における現地研修を通じて、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、種子・種苗の供給、品質評価等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:00-15:40 (40分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:00-17:00 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会 生薬国内生産検討班長
10月9日 (水)	9:00-10:30 (90分)	[講義] 薬用作物の栽培にあたって(仮題)	地域の生産者から要望の高い栽培技術について解説する(シャクヤク、トウキ等)。	柴田 敏郎	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター 客員研究員
	10:40-12:00 (80分)	[講義] 農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」の取り組み(仮題)	薬用作物生産の低コスト化や安定化等を可能とする技術開発を目的とした標記プロジェクトの概要、ならびに地域におけるこれまでの取り組み成果について解説する。	川嶋 浩樹 小林 泰子	農研機構西日本農業研究センター 畑作園芸研究領域 施設野菜生産グループ長 三重県農業研究所 茶業・花植木研究室 花植木研究課 主幹研究員 兼課長
	12:00-13:00	昼休み			
	13:00-14:30 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:30-14:50	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 中四国会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： 高知県立県民文化ホール（高知県高知市本町4-3-30） 第11多目的室

実施時期： 12月12日(木)～13日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
12月12日 (木)	12:35-13:00 (25分)	12:25現地集合 場所:佐川駅前(土讃線) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:00-15:00 (120分)	[講義・現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	「ヒューマンライフ土佐」における現地研修で、収穫時期の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:00-16:15 (75分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:30-17:30 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	高林 耕平	日本漢方生薬製剤協会 生薬国内生産検討班
12月13日 (金)	9:00-10:30 (90分)	[講義] 薬用作物の栽培にあたって(仮題)	地域で有望なミシマサイコ、キキョウ等の栽培技術について解説する。	飯田 修	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター 客員研究員
	10:40-12:10 (90分)	[講義] 牧野植物園における薬用植物研究の取り組み(仮題)	牧野植物園における薬用植物資源の開発を目指した研究、薬用植物の生産栽培に関する研究について紹介する。	松野 倫代	高知県立牧野植物園 植物研究課 研究員
	12:10-13:10	昼休み			
	13:10-14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 九州会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： 大分県中小企業会館(大分県大分市金池町3-1-64) 中会議室

実施時期： 10月24日(木)～25日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月24日 (木)	13:00-13:30 (30分)	12:50現地集合 場所：杵築駅前(JR九州 日豊本線) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30-15:10 (100分)	[講義・現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	杵築市(東京生薬協会との薬用作物栽培に関する連携協定締結)の圃場における現地研修で、収穫間近の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:10-16:10 (60分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:30-17:30 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	白鳥 誠	日本漢方生薬製剤協会 生薬委員会委員長
10月25日 (金)	9:00-10:30 (90分)	[講義] 薬用作物の栽培にあたって(仮題)	杵築市と連携して取り組んでいるミシマサイコ、キキョウ等の栽培技術について解説する。	飯田 修	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター 客員研究員
	10:40-12:10 (90分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について(仮題)	延岡市と連携して取り組んでいるサフラン・ヤマトウキ・ムラサキ等の薬用作物の栽培技術について解説する。	渥美 聡孝	九州保健福祉大学 薬学部 薬学科 講師
	12:10-13:10	昼休み			
	13:10-14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	